

**平成26年度 大阪市社会教育委員会議
第4回小委員会並びに区長との意見交換会 議事録**

1. 日 時 平成26年11月11日(火) 午後2時から5時

2. 場 所 大阪市役所 地下1階第10共通会議室

3. 出席者

(委員)

久委員・木原委員・笹川委員・弘本委員・宮田委員

(教育委員会事務局)

森本生涯学習部長、濱崎生涯学習担当課長、藏田社会教育施設担当課長、植木文化財保護担当課長、松村生涯学習担当課長代理

(区長)

高野西区長、羽東阿倍野区長、榊淀川区長、藤井平野区長

4. 議事概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席委員紹介

(4) 出席区長紹介

(5) 議案

- ・ 区長会との意見交換会について
- ・ 意見具申(案)について

(6) その他

5. 主な意見等について

(区長会との意見交換会について)

- ・ 西区では、平成25年度より、企画講座を公募型に切り替えた。講座を開きたい人に手を挙げてもらい、広報と講師謝礼の一部を行政で補助するという形をとっている。その結果行政で企画していた頃にはなかったようなテーマがみられるようになった。多種多様な講座が企画される中で、これまでの学習者が教える側にまわったりと知の還流につながっている。
- ・ 阿倍野区では、グローバル人材育成の一環で、地域で英語の堪能な人を小学校にボランティアとして受け入れて、放課後事業のサポートをしてもらう地域資源を活用した事業を行っている。
- ・ 淀川区では、生涯学習ルーム事業、はぐくみネット事業、学校体育施設開放事業を教育コミュニティづくり3事業としてとらえなおし、事業の目的を理解してもらい、再定義していく。また、生涯学習の拠点として、図書館をとらえなおしていく、学校図書館活性化事業を構想している。

- ・平野区では、公募型で、平野区ならではの「おせちづくり」という講座があった。区に愛着を持つというテーマを自主的にやってくれている。
- ・区に市民力を持った人材を増やしていくことが地域のポテンシャルのアップにもつながっていく。区民との協働による区の運営のボトムアップ。生涯学習の分野に限らず全体のシナリオを作っていく必要があるのではないか。
- ・これまでとは違う新しいタイプの人たちが自分たちの活動をできるような場を提供するかどうかで見え方が違ってくるのではないか。
- ・地域に人を育てるために何をしたらいいのかにふみこんでやってみればいいのか。団体に対する支援は、コミュニティづくりにつながっている。団体とどう協働していけるかについて、区単位で取り組んでほしい。
- ・行政は、これからは支援ばかりするのではなく、マネジメントしていくことも必要。
- ・これが生涯学習だと意識しないで、学んでいる場合もある。例えば講座を企画してみんなでやっていくことが生涯学習になっている。生涯学習という言葉が知らなくても、やっていると生涯学習がわかってくることもある。
- ・これまでの、講座を受講することや施設に行くことが生涯学習であるという考え方ではなく、生涯学習にはいろいろな学び方があるのだというように認識を変えていくことが必要。
- ・わかりにくいものをわかりやすく伝える努力をおしまないことが大事。

(意見具申について)

- ・コミュニティに参加していない層へのアプローチについては、声かけしていくことが一番確実な方法だが、誰が誰にというところがポイント。声かけをきめ細かくしていくのが、遠そうで、結局は一番の近道ではないか。
- ・子どもが集まる場所には大人もおのずと集まってくるので、うまく活用する方がいい。
- ・既存のスペースの有効活用と、団体の有効活用も必要。
- ・既存の空間を使いやすくしていくということと、個人の所有物を活用していくための支援づくりの両方の視点が必要ではないか。
- ・区や、市が動きすぎないで、市民活動を察知して、それを支援していくことが必要。
- ・アクティブ型でなく、パッシブ型、例えば規制を緩和していく力やコーディネート力のような受容力、キャパシティの大きさも必要。
- ・ICTの活用についても、これまでとは別視点の発想をできるかどうかポイント。
- ・市民が自由に情報公開、交換ができるプラットフォームを作ればどうか。例えば、あるスペースに本を置くだけでも交流の場になる。
- ・ユーチューブや、フェイスブック、ツイッターなどは新しい口コミの形態。新しい道具を使って新しい動きができる人が必要。

- ・情報戦略と人材育成の両方が動き始めると面白いことができる。
- ・社会的包摂的なセンスを市民自身が磨いていくことも必要。ICT の活用には、相互理解が深まるというメリットもある一方で、同じ人たちが固まってしまうという問題もある。そういった課題を乗り越えていくためにも、社会的包摂的なセンスが必要になってくる。